



TKK 共通シラバス

1. 科目名	災害危機管理				
2. 教員名	藤賀雅人	3. 担当大学	工学院大学		
4. 対象学年	3年	5. 開講時期	後期	6. 単位数	2単位

7. 授業の目的・到達目標（神）、授業のねらい及び具体的な達成目標（工）、授業の概要（内容）・到達目標（東）					
<p>災害対応は防災・減災のみならず、復興過程も視野に多様な視点からの対応が求められる。東日本大震災発生以降はこうした復興プロセスに内在する矛盾が露わになり、既存の復興過程から蓄積されてきた減災や事前復興といった思考が曖昧さを増している実態もある。本講義では、こうした背景を踏まえつつ、日本における防災・減災・事前復興の施策を行政・市民の両面から理解し、今後の都市安全の方向性を思考する基礎的な知識を習得する。</p>					
8. 授業のキーワード（神）					
復興プロセス、災害対策、都市計画、事前復興、行政・地域					
9. 授業の進め方（神）、授業の方法（東）					
講義形式で行う。講義中に小課題を行い、レポートとあわせて学習成果を評価する。毎回、前回配布資料を復習し、理解を深めておくことが望ましい。					
10. テキスト、参考書、指定図書（神）、教科書・参考書等（東）					
○テキスト 講義時に資料を配付する。					
○参考書 佐々木昌二「最新 防災・復興法制-東日本大震災を踏まえた災害予防・応急・復旧・復興制度の解説-」第一法規株式会社, 2017 牧紀男「復興の防災計画：巨大災害に向けて」鹿島出版会, 2013 牧紀男「災害の住宅誌：人々の移動とすまい」鹿島出版会, 2011					
11. 授業時間外に必要な学修（神）事前、事後に受講してほしい講義等（東）					
【事前に受講してほしい講義等】 地域の安全、建築の安全 【事後に受講してほしい講義等】					
12. 提出課題など（神）					
小課題・レポート 講義時に出題する。					
13. 成績評価方法・基準（神）、成績評価方法及び水準（工）、評価の方法・基準（東）					
講義内で行う小課題（50%）、レポート課題（50%）の合計 60 点以上を合格とする。					
14. 履修するにあたって（神）、学生へのメッセージ（工）、授業時間外学習（予習・復習）・履修上の注意事項（東）					
15. 参考（ホームページ（神）、オフィスアワー（工）等）					

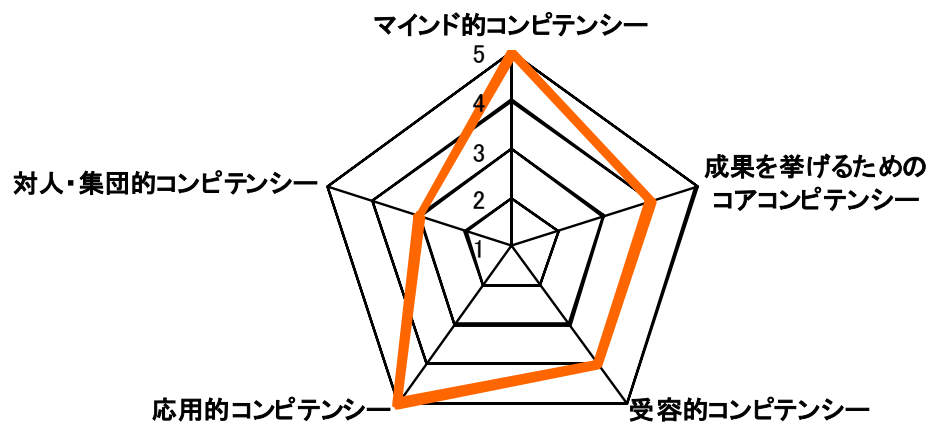
オフィスアワー 水曜日 11:30~13:30 ただし事前にアポイントメントをとること。
E-mail : m_fujiga@cc.kogakuin.ac.jp

【授業計画（神）（東）、授業計画及び準備学習（工）】

講義番号	主題	内容
第1回	イントロダクション	講義の進め方・評価基準について説明し、災害前後を読み解く視点を理解する。
第2回	大規模災害の歴史	日本・世界における災害史を外観する。
第3回	復興プロセス①	日本における近代復興のプロセスを把握する。
第4回	復興プロセス②	阪神淡路大震災など、震災の復興過程から現代の復興プロセスを考える。
第5回	復興プロセス③	東日本大震災の復興過程から現代の復興プロセスを考える。
第6回	復興プロセス④	その他の災害の復興過程から現代の復興プロセスを考える。
第7回	災害対応の法体系①	大規模災害に備えた法整備の内容を理解する。
第8回	災害対応の法体系②	復興過程における法整備の内容と計画立案の関係性を把握する。
第9回	災害前後の行政対応	災害時の国・地方自治体の役割の違いを理解し、行政制度の全体像を理解する。
第10回	災害前後の市民対応	災害時の地域・市民の対応のあり方を理解し、まちづくりと事前対応の重要性を確認する。
第11回	災害後の専門家の役割	復興に関わる各分野の専門家のあり方を網羅的に紹介する。
第12回	事前復興①	事前復興の概念と施策の展開を把握する。
第13回	事前復興②	防災計画・復興プロセスからこれからの事前復興のあり方を考える。
第14回	災害に強い社会	防災・減災・復興の関係性からこれからの社会のあり方を学ぶ。
第15回	講義内容の確認	講義で取り上げた内容を振り返る。

【コンピテンシー】

本講義を通して身につけることが期待されるコンピテンシーは、以下のグラフを目安にしてください。



コメント

本講義では、特に「マインド的コンピテンシー」と「応用的コンピテンシー」の向上を目指す。復興意識や情報活用力、課題解決力の向上に力を入れる。